



## 6/1 国消国産講座を開催

JAグループがすすめる「国消国産運動（“国民が必要として消費する食料は、その国で生産する”という考え方）」を県民に広く周知し、食料・農業・環境に関する情報の発信と、食料の安全保障に係る理解を深めていただくことを目的として「国消国産講座」を6月1日（土）に開催しました。

JAグループサポーターである林修先生をお招きし、一般消費者からは募集人数を大きく上回る1,200人の応募があり、当日は招待者含め700名近くの参加者にご来場いただき、会場はほぼ満席の状態となりました。

講演会では、能登半島地震から5か月を経過したなかで、被災地の現状と生産者の復興に対する想い、また消費者へのインタビューを交えたオープニングビデオを上映したほか、林修先生より、「変化する世界の食料事情。大切な日本の食を未来へ。」と題した講演が行われました。

JAグループでは、引き続き行政とも協力し、消費者のほか教育機関、食品・商工・流通団体等も含めて「国消国産」を広く周知していきたいと考えております。

今後とも、「国消国産運動」の周知ならびに国産農畜産物を積極的に選ぶことによる食料自給率の向上に向けた行動変容等について、ご理解・ご協力いただきますようお願いいたします。

**林修先生と学ぶ  
今でしょ!**  
国消国産講座

**今こそ考えよう!**

- 今、世界では** 異常気象、コロナ禍、世界情勢の不安が、食料価格を押し上げている
- 今、日本では** 食品の価格により、私たちの食卓に不安が広がっている
- 今、私たちができること** 国産が必要とし消費する食料は、できるだけその国で生産する。「国消国産」をすすめていくこと

**Choice!**  
いしかる産

**日時** 2024年6月1日（土）  
14:00～16:00（受付13:00～）

**会場** 石川県地場産業振興センター  
本館1階 大ホール  
金沢市鞍月2-1

一般の方 **500名** 参加無料  
募集

応募者多数の場合は抽選となります。

**司会** フリーアナウンサー 福島 彩乃

主催者/いしかるの食の未来を考える会 後援/石川県、北陸農政局

**JAグループ石川**

JA東濃、JA小坂井、JA東三河、JA豊田、JA豊橋、JA刈谷、JA岡崎、JAあまのいせ、JA金沢中央、JA金沢市、JA石川中央、JA石川北、JA石川南、JA加賀中央、JA加賀南、JA加賀北、JA加賀東、JA加賀西、JA加賀南西、JA加賀北西、JA加賀北東、JA加賀南東、JA加賀中央東、JA加賀中央西、JA加賀中央南、JA加賀中央北、JA加賀中央東北、JA加賀中央東南、JA加賀中央西南、JA加賀中央西北、JA加賀中央南西、JA加賀中央北西、JA加賀中央東北、JA加賀中央東南、JA加賀中央西南、JA加賀中央西北、JA加賀中央南西、JA加賀中央北西

申し込みフォームまたはFAXにてお申込みください。  
最寄りのJAでも受け付けております。

申込締切 5/19



5月24日(金)にJA、県・市町行政、県農業会議の出席のもと、次世代総点検運動管理者会議を開催しました。会議では、令和5年度までの取組み経過から令和6年度の具体的な進め方を共有しました。また、石川県農業経営戦略課から県内の地域計画作成の進捗状況の説明があったほか、戦略室から他県の取組事例を紹介しました。

令和6年度は運動は集中実践期間の最終年度となることから、取組みを振り返るとともに、課題や成果を次期計画に反映させていくタイミングとなります。

地域の現状や将来見通し等、点検結果の妥当性検証と、農業者との話し合いによる優先取組地区・部会の課題確認と取組具体策の実行を進めていただくため、引き続き、関係機関と連携し、各地域でのチーム会議や個別協議に戦略室も参画しサポートさせていただきます。

なお、全中が作成した「次世代総点検運動の実践に向けて～実践JAの取組み事例集～vol.2」(令和6年5月作成)を5月下旬に各JA担当部署に配布しました。

全国各地の事例として、JA金沢市の取組み経緯やポイントなどが記載されておりますので、実践にご活用ください。

### <運動の実施項目と進め方>

ステップ	取組み項目	実施者	連携
計画	① 関係機関との進め方の協議	JA	県
	② 地域農業戦略の確認、品目毎の判断単位(範囲)設定	JA	
	③ 判断単位毎の現状分析・将来見通し策定	JA	県市町
	④ 取組優先順位の策定(判断基準の設定)	JA	県市町
	⑤ 判断単位毎の取組方向性の確認(R15年度末目標の確認)と支援先の明確化	JA→判断単位	市町(県)
実践	⑥ 判断単位との実施具体策の検討	判断単位+JA	県市町
	⑦ 判断単位個別取組の実践	判断単位(JA伴走)	県市町
	⑧ ③・④の更新 ⑤～⑦の取組サイクルの継続		

## 《JA能美》たまねぎの収穫が始まりました

JA能美では、水田園芸として「たまねぎ」の栽培を推進しており、8年目となる令和6年産の作付面積は約15haと年々増加しております。

本年産は春先の低温等の影響が心配されましたが、生育は概ね良好で、5月中旬から始まった収穫作業も順調に進んでおり、7月末までに500tの出荷を見込んでおります。

戦略室では、引き続きワーキンググループを通じた情報提供や単収向上提案などを行い、水田園芸の振興支援を行ってまいります。



## 5/28品目別ワーキンググループを開催

5月28日(火)、農業会館にて「ブロッコリー」「白ねぎ」「かぼちゃ」のワーキンググループを開催し、今作の生育状況や取り組み経過を確認するとともに、今後の管理や次期作に向けた取り組みについて意見交換を行いました。

今作に関しては、特に収穫に向けた各種仕上げ作業の指導強化が課題に挙げられました。また、次期作に向けては、「ブロッコリー」ではフェロモントラップを使った病害虫対策、「白ねぎ」では早播き・大苗定植の確立に向けた試験実証、「かぼちゃ」では排水対策の有無による収益差の見える化、について意見が交わされました。

今後もワーキンググループで得られた情報を活かし、JA・農林事務所など関係機関と協力しながら課題解決に取り組んでまいります。

### ～6月以降の予定～

日時	内容
6月25日(火)13:30～	野菜栽培技術研修会(高温対策)
6月27日(木)13:30～	石川県GAP推進協議会通常総会および推進会議
7月 3日(水)10:00～	第2回TACアグリビジネススクール